# 社会新報 植田好雄版

【発行所】　社会民主党全国連合機関紙宣伝局
（週間水曜日発行）
〒104-0043　東京都中央区湊3-18-17マルキ榎本ビル5F
電話代表03（3553）3787　振替00140-1-3203　●定価180円
●1ヵ月700円●送料164円

【分局】
島根県江津市敬川町937-3

２０１８年年７月
N02

【発行責任者】
植田　好雄

TEL(Fax)　0855-52-7837

E-mail：yosio@helen.ocn.ne.jp

## 植田好雄の質問事項

1、三江線廃止に伴うバス転換について
（1）三江線廃止の教訓点について
（2）三江線廃止は働く場の喪失について
①鉄道事業法の見直し要望について
②既存企業の雇用を守る重要性について
（3）バス転換の展望について
①利用しやすい環境と261号の改良について
②地域公共交通網形成計画の評価と課題について

2、災害に強いまちづくりについて
（1）2013年豪雨災害対策の進捗状況について
（2）未対策箇所の改善について
（3）敬川河口の砂の堆積問題について

3、島根原発問題について
（1）島根原発について
（2）避難計画の受け入れについて
（3）受け入れ期間と経費について

6月11日から開会した定例6月議会は、14日、15日に一般質問が行われました。今回一般質問を行ったのは、16名中12名の議員がでました。植田好雄は、15日（二日目）の4番目（全体では10番目）に行いました。

市議会選挙を守る公共交通を暮らしに活かす事など、医療・介護・福祉の充実や子育て教育環境の充実、憲法を暮らしに活かす事など、交通の確保、地域経済の発展と雇用の確保、平和を訴えてきました。そうした観点から、「暮らしに安心の江津市」について、一般質問を行いました。質問は合わせて50分と限られており、終わってみれば、質問要旨を掲載します。

## 植田好雄の質問

### 歴史に幕を下ろす思いは

▼（植田）列車に乗れば息子のところに行けると言われていた住民には、希望を与えるあっせんでもあった。暮らしを最終列車の運行後、安全対策なども踏切、駅舎、隧道、鉄道の鉄橋などの柵は、JR全国の鉄道酷い、とフェンや声が廃線を有った。惜しむ人たちに当たって訪れた。率直な歴史に幕をおろすに思いは。

▼（商工観光課長）安全確保の観点から、JR西日本は速やかな対応が必要であったと認識しております。

### 公共交通を守る今後の教訓点は

▼（植田）廃線を止められなかったことに対する今後に生かす教訓点がありましたらお伺いします。

▼（商工観光課長）三江線存続の可能性を求め、両県選出の国会議員、JR西日本へ要望を重ねた。鉄道から自動車と地域公共交通の変化、沿線人口と利用者数の減少、鉄道事業法や公共交通を自分たちの手で守ろうとする意識にも欠けていたことも要因の一つだったと考えております。

公共交通を守る為、行政はもと住民一人一人がその利用促進に努めなければならないと考えています。

▼（植田）両県選出の国会議員に要望したと答弁をされました。国会議員さんはどう動いたのか、具体的に伺います。

▼（商工観光課長）具体的には認識しておりません。現状は国会議員さんに話しさせていただいた。

▼（植田）国会議員に要望したら、具体的な動きをつくってもらうことが行政としての責務と思いますが、お伺いします。

▼（市長）三江線廃線の危惧は十数年前から感じていました。平成19年災害時に、利用促進に取り組むことで運転再開をされた経緯がございまして、廃線の表明がなされてから以降相当しつこくJRに対してもの物を申しにつきましたが、一生懸命この問題にはいてきました。汗をかいてきてはいます。

▼（植田）両県選出の国会議員の先生方、細田代議士、竹下代議士や青木代議士とも私は話をしてきました。

お話しさせていただきました。孤軍奮闘しても声が届かない本当にじくじたる思いで3月31日を迎えたことは事実です。

今後公共交通を守るに当たっては行政も地域住民の人も一緒になって守っていくことが私は大切だと思っています。

▼（植田）市長の御尽力されてきました思いはそのとおりだろうと思います。

この三江線廃止が1つのモデルケースになると言われました。鉄道事業法の第28条の2も、全国市長会も含めまして国にこの改正を求めて取り組むべきと思いますが、お伺いします。

▼（市長）地域振興などを積極的に考えなければいけない。

人口減少が大きなネックになっていると、鉄道事業法を切り捨てるのは私はどうかと思っています。

やはり地元の利用者数を増やす努力をしなければならない。

人口の減少を食い止めるのは、国、県、市、地域住民一人一人がそれぞれの立場で考えていかなければならない。

## 持続可能な交通の確保

▼（植田）バス転換は、持続可能な交通手段にしていかなければなりません。落石でタクシーの代行をされ、今後当然考えられますが、経費の考えについてお伺いします。

▼（市長）今回の予算計上が一般財源ですが、市で負担すべき話ではない。いずれ財源更正、財源を振りかえさせていただければと思っております。

私は、ランニングコストを20年お願いしたが、残念ながらあるという形に、当初はJR側は5年と言った。

地域公共交通は特別交付税で8割、活用分で措置をされますが、ルール沿線住民の交通手段の確保は市の持ち出しも出てきます。そこのところを思ってます。

過疎化、高齢化、一層進行しても腹をくくって臨んでいかないといけないと思っています。

▼（植田）狭い歩道にバス停は危険な状態です。降雨や降雪時はバス待ちは辛い。待合所の設置やフリー乗車区間など、利用しやすい環境について伺います。

▼（商工観光課長）バス利用者の動向を把握しながら国道261号の管理者である島根県が道路改良を働きかけたいと際には必要な改善を図ること、届け出制からきつい縛りをしないといけないんではないかなと思っています。法改正もふくめてその方法論を考えていくことが大切ではと思ってます。

## 災害対策について

▼（植田）災害に強いまちづくりについて、2013年に豪雨災害被害に対する対策と進捗状況について伺います。

▼（土木建設課長）助事業の災害復旧事業が発生。この災害が事業年度末で全箇所の災害復旧工事が完了しております。

▼（植田）原状回復だと同じ状況が生まれる可能性もあるのでは。

▼（土木建設課長）災害復旧事業は、災害形態が原則対策は、国、県防災対策が必要となり、大規模災害を強化し協力を得ながら連携を推進してまいります。

総合的に推進してまいります。

例を挙げられた、明星川に幅広く狭く氾濫しやすく、過去に2回民家がつかった。山水が流れ込み浸水被害を受けてます。

明星川の線路下の暗渠は、改善されない箇所の対策をお伺いします。

▼（土木建設課長）500件の補助事業の災害復旧事業。この他単独、災害復旧事業。

▼（植田）ケーブルの事故は、放射能と魔物に侵されることでありますけど、十分な対策をとっていくことが必要だと思います。

最優先されるのは、住民の安心・安全、命や暮らしだという形に、拙速に稼働判断されないよう要望を切に行政としてもされることを切に申し上げまして、私の質問を終わらせていただきます。

## 島根原発について

▼（植田）島根原発の問題について伺います。

5月17日に中国電力より松江市に3号機の原子力委員会への審査申請されておりまする。江津市前了解願を提出されて、原発と対岸の火事「10キロ以上離れてますが」では、いけないと思います。見解をお伺いします。

▼（総務課長）万が一原子力災害が発生し、広域避難の状況となった場合、本市も避難者の受け入れを行います。決して人ごとでなく、今後の議論の行方を強い関心を持って注視してまいりたいと思います。

▼（植田）受け入れ計画が立てられて、江津市は9,140人となってますけど、その体制ができているのか、課題とか経費含めてありましたら、お願いします。

▼（総務課長）松江市の城西地区から避難されます。約9,000人、物資の備蓄を含め、最大人数が避難された場合、受け入れ態勢は十分とは言えないのが現状です。

それから、期間の問題ですが、避難行動要支援者はおおむね1カ月以内、それ以外の方はおおむね6カ月以内に仮設住宅、賃貸住宅、社会福祉施設等に移転できるよう調整されることになっております。

▼（植田）計画はあっても想定通りに行かない事もある。

ちょっとした、避難ができる、シミュレーション、訓練等も必要になってくるんじゃないかと思います。

あわせて、住民へ受け入れについ周知徹底も必要になってくると思いますけど、考え方をお伺いしたいと思います。

▼（総務課長）島根県、松江市との意見交換は続けており、平成26年には実際に城西地区の皆さんが江津中央公園にいらっしゃいました。その後も県内で訓練を続けてきました。

報交換を続けたいと思います。

▼（植田）原発事故は、放射能という目に見えない魔物に侵されることはないようにしたいと思います。

▼（土木建設課長）砂の流れを制御するとうまくいくことになりますが、導流堤や防波堤など多額な建設費をかけても想定どおりの結果を得ることが難しいというふうに県のほうから伺っています。

また、県では1度河口閉塞調査を実施されているとのことでございます。

市としましては、河川パトロール等による監視をさらに強化し、適宜対応していただくよう県に引き続き要望してまいります。

津宮小学校の子供達と「ヒラメの放流体験」